

- ① 「彼の三時の悪業報必ず感ずべしと雖も、懺悔するが如きは重きを転じて軽受せしむ、又滅罪清浄ならしむるなり」

(本山版訂補『正法眼蔵』別本(六十巻本)「三時業」 1041頁)

- ② 「世尊のしめしますがごときは、善悪の業づくりをはりぬれば、たとひ百千万劫をふといふとも不亡なり。もし因縁にあへば、かならず感得す。しかあれば、悪業は懺悔すれば滅す、また転重軽受す。善業は、随喜すればいよいよ増長するなり。これを不亡といふなり、その報なきにあらず」

(『正法眼蔵』四 永光寺本「三時業」水野弥穂子校注 岩波文庫 329頁)

- ③ (S42. 11. 1 処刑日前夜色紙に)

“笑む今の素直になりしこのいのち 在るとは識らず 生かされて知る”

「学校を出てより死刑囚となるまでは、僕の内側の「もの」を知らなかったのを、短歌と多くの人の心によって(それを)知り、人生はどんな生き方であっても幸せがあるのだと思い。．．．現在では、人間として心の幸を深く知り得たことをよるこぶのです。」

(窪田空穂宛手紙S38. 6. 7 遺愛集P76)

「僕は生かされて得た心でしみじみと思うことは、人の暖かさに素直になって知りたいのちの尊さです。厚意の多くに甘え切って裸になって得たよろこびの愛おしい日日のあったことがとてもうれしいと思います。」

(『遺愛集』あとがきにそえてS42. 11. 1夜)

新潟市秋葉区田家

久昌寺 中野睦宗